

韓国の授業に見る日本人への意識に対する学生の見解

山西敏博*

Research on Students' Awareness of the Japanese People in Korean Lessons

YAMANISHI, Toshihiro

要 旨

本論は日本を挟んで地理的に対局にある大韓民国とアメリカ合衆国の意識が何故同じなのかを捉えていくとともに、英語の授業を通して行なった韓国の対日授業風景から学んだ学生・生徒達の感想と見解を通じて、今後の平和教育への指針を述べていくものである。

Abstract

This paper explains why Korea and the United States have the same opinions about the fact that it should be natural for the U.S to drop the atomic bombs to Japan and states a guideline of peace education through Korean people's awareness of Japan in history classes in Korea.

1. 研究の動機・目的

西暦2000年を迎えた年、この年は20世紀最後の年代となり、戦後50周年の記念式典等が95年に盛大に行われてから5年を経過している。一部では「もはや第2次世界大戦（太平洋戦争）は過去の事として、一つの終着を迎えた」と声高々に語られてもいる。確かに過去にばかりこだわっていても未来への前進はないと言われるのも事実であろう。2004年度、昨今は「韓流」ブームが日本国内を席卷している。日本人はこぞって韓国を訪れ、大好評であった韓国の恋愛ドラマのロケ地散策や代表料理である焼肉を堪能するなど、大いに韓国文化を満喫している。

一方で、戦後51周年を迎えた1996年の8月15日、北海道・札幌大通公園で10代の若者30人にマスコミが次のようなアンケートを行なった。

1. 「広島、長崎に原爆が落とされたのはいつですか。」
2. 「広島、長崎に原爆を落とした国はどこですか。」
3. 「南京大虐殺という言葉を知っていますか」

(STV, 1996)¹⁾

原爆が落とされた日が「8月6日、9日」（1の回答）と正確に答えられたのは30人中半数以下、原爆を落とした国が「アメリカ」（2の回答）と正確に答えることができなかった者が30人中3人もいた。まして「南京大虐殺」（3の回答）に至っては「何、それ？」という回答がかなりの数を占めた。太平洋戦争が過去のものとして忘れ去られる前に、最低限の歴史的事実に対しては国民、特に次代を担う若者は一般常識として知っておかなければならない周知の事実である。そういった史実をしっかりと伝える責任の一端は教師にある。

一方、アジア諸国の日本に対する情勢も以前とさほど変化してはいないように思える。無論、日本の閣僚が毎日のように戦時中の出来事や戦後処理に対して舌禍事件を巻き起こす現象がアジア諸国に報道され、それに対し

* 助教授 文系総合学科

4. 調査の対象・期間

過去において一度この研究については北海道内の私立中高一貫校に所属する高校1年生41名を対象に実態調査を行なっている(1996)。その実践結果も織り込みながら、今回は先行研究を踏まえての改良調査となる。今回の対象も同じく高校1年生41名を抽出した。実施期間は平成12年10月の1ヶ月間である。

5. 調査方法・実践概要

放課後に行われた英語講読講習の実践を一つの柱として関連する取り組みを考えた。調査方法、実践概要は以下のとおりである。

- 第1講義： 韓国民に対する意識調査 (Pre-Questionnaire) /
英語文献講読 — 3 Round System (竹蓋, 1998)¹⁴⁾ による英文読解
「電光掲示板英文読解方法」(山西, 1998)¹⁵⁾ による Paragraph Reading ・ Paragraph Summary による内容理解
- 第2講義： 韓国の対日観を扱った授業風景のVTR視聴
- 第3講義： 韓国民に対する意識調査 (Post-Questionnaire)、感想記載

6. 実践方法

授業実践は以下の形式で行なった。

6.1 授業実践：

A. 授業題名：THE JAPANESE PEOPLE IN KOREAN EDUCATION

B. 授業目標

- 1) 「英語の授業である」事を念頭に、英語文献を講読していく事により読解力をつけると同時に、その背景にある太平洋戦争開戦にあたった経緯を読み取らせる。
- 2) 韓国で実際に行われている小学校の日本についての授業を通して、現在にも生きる韓国民の対日感情の現状を理解させる。
- 3) 日韓の将来はどうあるべきかをお互いに考えさせていく。

6.2 文献資料：

- ・NHK (1996) 溢れる日本文化の中で —韓国— アジアの教師たち 「E T V」取材班 東京：NHK¹⁶⁾
- ・平井他 (1993) Who Am I?— In Search of Myself— World Scope: People and Issues New Edition p. 4-6 東京：桐原書店¹⁷⁾

6.3 第1講義実践概要

「Who Am I?— In Search of Myself—」¹⁸⁾という作品から、日本に生まれて韓国に移住した女性歌手についての生い立ちと、日韓両国に育った彼女の価値観を述べた心情を読み取った。内容は以下のとおりである。

I was born in Kawasaki / I have been all over the world / I eat natto for breakfast and eat Kim chi for dinner / Who am I? / My Daddy is a stubborn man from Kyushu / My mom is a selfish woman from Korea / Added them up and divided into two / Who am I? / I don't care / I don't care / I don't care / Who am I?

These are the words to the song *Who am I?* Written and sung by Sawa, Tomoe. Tomoe's father is Japanese and her mother Korean. The song tells about her search for her identity.

When her father was studying the history of Christianity in Korea, he met his future wife and they married. Sawa, Tomoe was born in 1971 in Kawasaki. Then in 1973, the family moved to Seoul and lived there until Tomoe was in the first grade of elementary school. And they also lived in the U.S. for two years. In 1979 they were forced to leave Korea because Mr. Sawa supported the democratic movement. They lived in Japan until her father went to work in the United States in 1986, when Tomoe was in high school.

Tomoe was determined to become a classical pianist, but when she listened to jazz in America, she fell in love with it. The sounds of jazz, gospel, samba, and Korean folk music fermented inside her soul. As a result, writing and singing songs came to her naturally.

Who am I? was the title song of her third album. She explains that this album was the product of a search for herself.

“When you go into the world, you have to think about who you are,” Tomoe says. “I started to think about who I was. People around me and even I myself would ask, ‘Are you Japanese or Korean?’ When I wrote this song, I wasn’t feeling very optimistic about life. I wanted to look at each part of my life as I wrote the words.”

Tomoe talks about the source of her energy. “If I didn’t have music, I don’t think I would be as strong as optimistic as I am now. You can sing a song over and over. Each time I sang this song, it opened me up a little. It helped me to smile and laugh and face life as it is.”

On September 10, 1996, Tomoe returned to Seoul for her first concert. Japanese music and music and movies are banned in South Korea. This is because of the strong anti-Japanese feeling for what Japan did during World War II. So Tomoe translated all of her Japanese songs into Korean. She sang about herself in the Korean she learned as a child and in English. Her Korean was not perfect, but perhaps that helped the audience see her passion.

Her mother’s father, Soun Kim, was a famous Korean poet, essayist, and translator. One of the Korean poems that he translated into Japanese is called *Chosen Minyosen*. Kitahara Hakushu, a famous Japanese poet, praised the translation. “It is much better writing than what the Japanese write,” he said.

Tomoe had never read the books that her grandfather had written. But when she was in college, she read his writing for the first time. She was deeply impressed by his beautiful Japanese. One of the songs on her album is from a poem written and translated by her grandfather. It is called *Kokoro*. However, she could not sing this song in Japanese when she performed in Korea.

“Someday I hope to sing this song in the land of my ancestors where I spent my childhood,” Tomoe says.

この作品を（１）何のヒントも与えずに耳だけを頼りにしながら main topic を探らせ、（２）テキストを見ながら目と耳を頼りにして改めて同じ文を聞かせて main topic を理解させ、（３）最後に「Who am I?」はどのような経緯から生まれた歌か（In what situation was this song produced?）」と、聞く中心となる要点を与えながら再度全体の内容を理解させるという「3 Round system」の方法で英文の理解を図り、加えて、「電光掲示板英文読解方法」を用いて英文を意味のまとまり（sense group）ごとにスラッシュで区切りながら一文ずつの意味を極力日本語を介さずに理解させていくという指導方法を用いた。そして最後に全体の詳細な内容が理解できた後で、「トモエさんの略歴を英語で書いてみよう（Let’s write her personal history in English.）」と発問し、その場で scanning や skimming の指導方法も用いた。最後に各段落の内容をまとめる Paragraph Summary も行なった。

6.4 第2講義実践概要

英語文献の講読で韓国民の日本人観を学んだ後、韓国の対日観を扱った授業風景のVTRを視聴させた。本時に行なった韓国の対日教育の要旨は次の通りである。

韓国のある小学校女性教諭は、以前から韓国内で急激に浸透してきている現代日本文化の現状に憂いを抱いていた。また、ファミリーコンピューターに代表される日本製品、マンガなどの消費文化の普及、これらを何の疑いもなく無条件に受け入れてしまう子供達の将来を憂いていた。教諭の意志は強くこの家庭では日本製品は一切受け入れてはいない。学校での作文の授業、週1回の校外授業の際には韓国の歴史の深い地を訪れては折りにふれて児童に日本についての意見や考えを述べさせる。

女性教諭はこう語る。

「個人的には日本人とはいくらでも友達になれます。一人一人の日本人はとても親しみやすく好感が持てます。でも、日本人、韓国人といった国民同士のレベルの話になると、戦争当時私達の民族に対して行なった日本人の残虐行為がどうしても思い起こされます。親しみやすく好感が持てるその顔の裏に隠された残虐性、これを垣間見てしまいどうしても慎重に行動せざるをえないのです。ですから歴史上の事実も子供達にしっかりと認識させたいのです。」

子供たちは授業を通じて日本の過去を学ぶ。6年生の授業で「日本を好きですか、嫌いですか」と二者択一の質問を投げかけた。13人中「好き」5人、「嫌い」8人という結果が出た。女性教諭は心なしか嬉しそうな表情だった。

地域の小中学校合同の教員同士の意見交換会が持たれた。議題は「日本についての教育のあり方」であった。ある体育教師は「日本との戦争は過去の事であり、今後は友好的な韓日情勢をどのように進めていったらよいか、子供達に学ばせる方が大切なのではないか。」と述べた。一方、ある女性小学校教頭は、日本のテレビ局の手前であっても、撮影、取材自体に何故許可を下したのかを責任当事者である校長に対してひとかたならぬ不満を持ちながら、「私は対日教育をする時には、今までずっと「日帝」という言葉や「日本の野郎が」という言い方をしています。その教えを受けた子供達が今また教師になって日本に対しての教育を引き継いでくれている事に大変満足感を覚えます。」と述べた。同じ韓国人教師でも年代によって日本に対する考え方は隔たりがある。反日感情を強く抱いているのは40代以上、好日感情は30代以下という様子である。結局交換会の最後に「あまり偏見を強く抱かない、中立な立場での教育を進めよう」という意見が押し出され、その結果に女性教師は後に顔を震わせ涙を流した。

教師という立場の人間は中立を持って私見を入れず児童、生徒に教育を施すべきか、または、教師だからこそ自分の意見を積極的に述べながら児童、生徒に教育を施すべきか。この2つの命題の是非が今後の韓国の、しいては全世界の教育の未来を指し示す事になるだろう。(NHK, 1996)

番組の中には英語こそ出てこないが、朝鮮語によって語られる「対日教育のあり方」はこれからの国際社会を生きる生徒達は是非とも知っておかなければならない内容の一つである。さしずめ「外国事情」の講義内容に匹敵するであろう。事前の資料として韓国内の小学校5年生国語教材の中に大きく取り上げられている「安重根」も提示した。日本の初代総理大臣である伊藤博文を暗殺したとして日本の教科書にも取り上げられてはいるが、その多くは名前が一つ明示されているだけで取り立てて大きくは扱われてはいない。せいぜい「日本の初代総理大臣である伊藤博文はハルビン駅構内にて暗殺された。」と受け身で書かれてある程度である。今回対象生徒に問いても10名前後しか知っている者がいなかった。しかし、その同じ人物は韓国内では英雄の一人に奉りあげられており、首都ソウルには「安重根記念館」も大きくそびえ立っている。すなわち「安重根」は「自らの生命を懸けて日本人が母国を侵略しようとした魔の手から守ろうとした偉人」なのである。一方、昭和50年代後半の日本の教科書に関する記述「侵略・進出」問題、はたまた「南京大虐殺等はでっち上げであり、そのような事実はなかった」などと妄言を吐く老齢政治家(屋)の言動を重く見た韓国政府が「あの忌まわしい日本人の残虐行為を決して忘れてはならない」と急遽建設した「独立記念館」には、韓国内から大勢の観光客が訪れるが、日本の旅行ガイドブックにはその紹介、記載すらない。一方、日本人は広島「原爆記念資料館」は訪れるかもしれないが、ハワイに行っても「パールハーバー」に立ち寄る日本人観光客はそう多くはない。日本はアメリカに対して原爆投下の謝罪を要求するが、アメリカは未だその正当性ばかりを主張する。しかるに、日本はアメリカに対して「パールハーバー」襲撃の謝罪を過去に行なっているのかその事実は明らかではない。そして、従軍慰安婦問題に関しては韓国の日本に対する要求にはアメリカが日本に対しての行動と何ら変わる所はない。ゆえに戦争当時の被害行為に関しては日本国は敏感であっても、加害行為に関してはその事実すら消し去ろうとしていると捉えられてしまう。これでは同じアジア圏にある韓国が日本につい

て良く思わないのも当然であろう。

一方、韓国の若者の意識はそれとは異なる。個人的にも13年程前に著者が韓国を訪れた時には、韓国ではソウルオリンピックの準備が急ピッチで進んでいる時であった。その時、一韓国人大学生が見知らぬ旅人の私に手厚いもてなしを施してくれたり、観光地では日本語を独学しているという女子学生が観光案内ボランティアをかってでてくれたり、喫茶店では意気投合した学生同士で「韓日・日韓学生友好会」と銘打って楽しい一時を過ごしたりとすっかり著者自身も好韓派の一人になってしまった程である。韓国の若者は過去の双方の歴史を認識した上で、今後日本とどのように対応していくかが現在の彼らの関心事になろう。同様に現在の日本から本来原爆を落とした敵国たるアメリカ文化を一掃してしまっは、今後の繁栄は有り得ないであろう。無論、手放しでは喜べない一面もある。今や日本語は世界的なブームになりつつあるが、それを学ぶ外国人は日本語を通じて日本文化を学ぶというよりも「日本語を学べばカネになる」という経済効果を期待しての学習が主である。それは「手段としての」日本語を通して布教活動を行なうキリスト教一派のそれと類似するものがある。だが、過去ばかり憂いていても仕方がない。国際関係では過去の清算がしっかりとされていないのでいつまでも尾が引いているのだという考えもある。それは真理である。そういった事情を鑑みて前向きな戦後処理を確実に行なった上で、将来的に両国の進展を推進していくための得策を講じる事が若者の今後の課題であると感じる。そして、それを支える教師自身も様々な研修を積み重ね、常に真理を追究する探究心をもって研鑽していかなければならないのである。

7. 調査の結果

始めに受講生徒にPre- Questionnaire を取った。その後ビデオを見せ、加えてMiddle-Questionnaire として意見、感想を英語で記させた。ビデオの鑑賞をさせた後、Post-Questionnaire として第一印象が変化したかどうか調査した。データは以下のとおりである。(N=41)

- 質問項目：1. (Pre-Questionnaire)
「韓国」はどのような印象ですか。
2. (Middle-Questionnaire)
WHAT YOU THINK OF KOREAN EDUCATION ABOUT JAPAN
3. (Post-Questionnaire)
「韓国」についてビデオ鑑賞後、印象はどのようにになりましたか。

回答：

1. 表 1

項目	人 数 (人)
(2000, N = 41)	
1) キムチ・焼肉	14
2) 反日的	7
3) 隣の国	3
4) 独特な文化を持った国	2
5) 急成長をした国	2
6) アジアの中では豊かな国	2
7) サッカーが強い	2
8) その他 (回答数 1 名の項目)	6
9) 印象はない	3

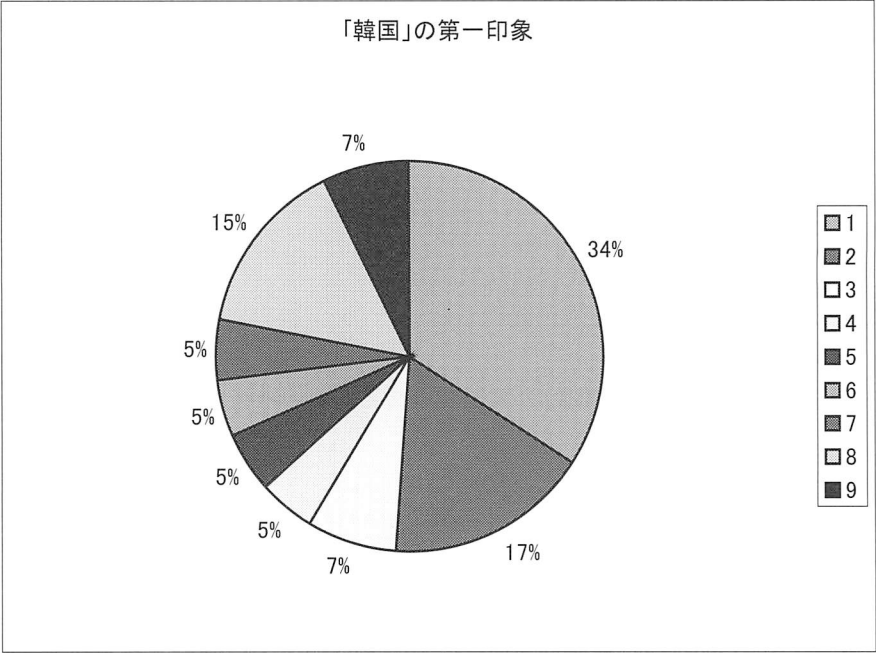


図 1 「韓国」の第一印象

2. 表 2

項目	人 数（人） (1996, N = 4 1)	人 数（人） (2000, N = 4 1)
1. 女性教諭批判	7	2 1
2. 女性教諭擁護	9	4
3. 共生平和追求・中立	1 4	1 1
4. その他	0	5
5. 無解答	1 1	0

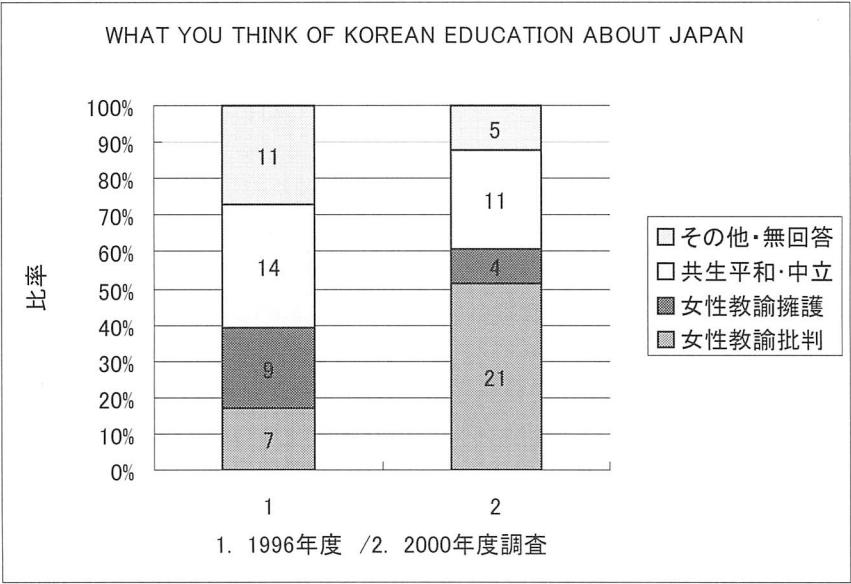


図 2 WHAT YOU THINK OF KOREAN EDUCATION ABOUT JAPAN

3. 表3

項目	人 数 （人） (2000, N = 4 1)
1. 変わった	2 5
2. 変わらない	1 3
3. その他	3

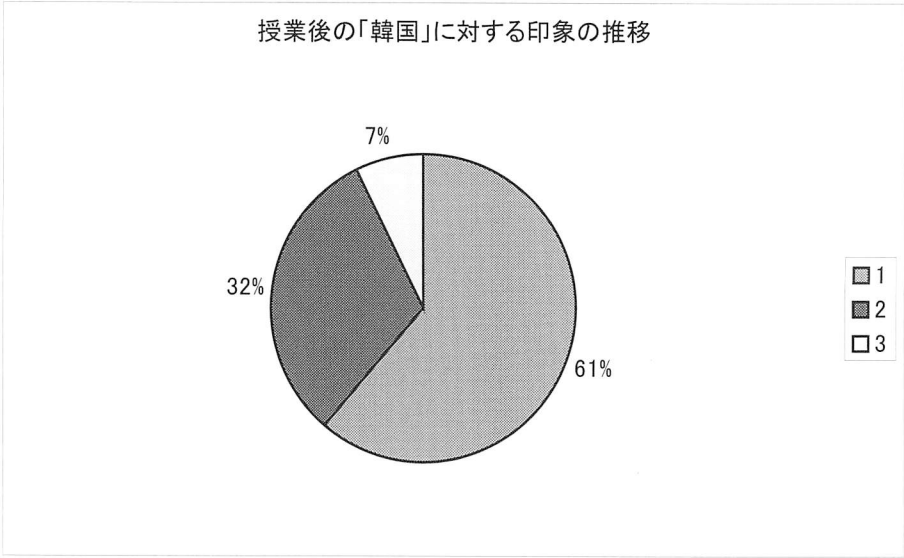


図3 授業後の「韓国」に対する印象の推移

1. 「変わった」 記述回答例
- ・思っていた以上に日本のことを敵対視していたようだった。教師は昔の考え方を捨て、日本との関係を深め、日本の悪い点ばかりではなく良い点も学んでいくべきである。
 - ・戦争についてこだわりすぎている。しかし、日本では韓国併合について詳しくは教えていないが、韓国では非常に濃密な授業をしているのに驚いた。
 - ・ここまで韓国の人々が日本を恨んでいたとは知らなかった。韓国を単に「隣国」「キムチ」と行ったような印象しか持っていなかった自分が恥ずかしい。いろいろな国の歴史を学ぶ必要がある。
 - ・表では良い顔をしていても、心の中に反日感情を抱いている国・国民
 - ・今まで日本が戦争でやってきたことがどのようなことかわかっていたつもりだったが、今でもこれほどまでに人の心を傷つけているなどとは思ってしなかった。早く問題を解決して、わだかまりをなくしたい。
2. 「変わらない」 記述回答例
- ・やはり韓国は日本に対してかなりの敵対心を持っていることがわかった。
 - ・日本と韓国は「焼肉」のような関係でありたい。つまり肉に火が通っていないように日韓の仲が冷え切っているとおいしくなく、また焼きすぎも仲が良すぎるのと同じで良くはない。ちょうどよく焼けている、ほどよく日韓の仲がいいのが一番未来や平和に対して良い環境である。
 - ・「豊かな国」であるという印象は変わってはいないが、具体的な内容までは知らなかった。
 - ・韓国の日本人に対する見方を知った。
 - ・あまりに日本に対して被害意識を持ち過ぎている。歴史的事実なので妄想とは言えないが彼らはあれが戦争の中での出来事だったということを忘れてる。多かれ少なかれ韓国人も日本人を殺したことがあるはずなのに。

3. 「その他」 記述回答例

- ・韓国での日本商品の人気、日本での韓国旅行の人気の高まりなど日韓関係は良くなっている。韓国人もそう思っていると思っていた。だが、ソン先生のような考え方を知りとても残念に思う。
- ・あまりにも自分は韓国について知らなすぎた。韓国では小学校でも詳しく勉強しているのに、日本ではほんの少しのことしか教わっていない。こんな教育だから終戦記念日を覚えていない人が出てくるのだ。更に何十年後かには日本が戦争をしたことすら知らない人も出てくるのではないだろうか。さらに「ゆとりのある教育」にもなっていく。将来の日本はどうなってしまうのか。

記述項目：ビデオ、授業受講感想

1996年度の調査では定期試験の中で「自由英作文」の一貫としてこの授業の感想を記させた¹⁸⁾。文法的な間違いにはあえて触れず、自由に英語5文以上で自分の感想を述べさせた。大学入学試験に関して言えば、このようなテーマを与えられての作文が徐々に主流になりつつある。どのような言語を用いようとも常に自分の考えを持ってそれを文章で表現する事が大切である。

<感想> (抜粋)

A. 女性教諭批判論

- ・ I don't like her because she thinks Japan bad. Japan and Korea should be good friends. I like Korea. Korean people except her like Japan now.
- ・ The teacher looked sorry. Her family must have been done terrible things. She felt angry because of it. But isn't it justice to teach Japan badly? I think she lost her duty as a teacher.
- ・ She makes mistakes. I think she shouldn't teach Korean children. She teaches her opinion. She shouldn't do such things. She should stop teaching about Japan!
- ・ The teacher has an extreme thought. But her effect to the students is no problem because the students don't only accept the teacher's thoughts. They think about that problem with their own thoughts. The problem is she cried after meeting.
- ・ It is bad. Teachers are not always like she is. Her opinion is too old. She has to change her thoughts. It is bad.

B. 女性教諭擁護論

- ・ She is a good teacher because she tells her students the fact. Japanese teacher should do so. In fact Japan had hurt Korea. So Japan should be blamed by Korea. Since World war II Japan and Korea have been blaming each other. We should clear that by telling facts.
- ・ Her opinion is right. Japan was rude in World war II. But Japan and Korea should compromise each other. The past belonged to the old and the future belongs to us.
- ・ It is natural that they think so. Japan is a bad country for the Koreans. But the Japanese don't like them. And we want to make friends with them. So I want the Korean people to understand Japan deeply.
- ・ I think the teacher is right in a sense. They must teach their own history as well. But I don't want them to add their own feelings about Japan. Children are innocent. And they must get the better of us.
- ・ She loves Korea very much. So she teaches her students not to like the Japanese and buy Japanese product. It is good that she loves her own country. But it is not good that she only teaches 'Korea'.

C. 共生平和追求論・中立論

- I don't like the teacher because she regards Japan is an enemy. But Japan has killed a great number of Korean people. Many Koreans- their parents, brothers and sisters- were killed by the Japanese. But some Japanese say the Koreans tell lies. So I can't accuse her until Japan apologizes to them for having done.
- They don't have good image of Japan because Japan have done bad behaviors. She should apologize to them. And I want them to teach good things of Japan. Also, I want Japanese teachers to teach good things of Korea.
- I think the Koreans are jealous. The teacher is thinking about war deeply. It isn't good to teach children about war too much. War is not good. I hope World's peace.
- Most Korean people forget about what Japanese have done, but a few still remember it. They accuse the Japanese of it. But there are some mistakes. We should forget the past and think of the future.
- I felt sad. War is over. Why do they say such things still ? We should think of the future and not start war again. All people hope the peace of the world.
- I think Korea is much interested in history. The Japanese are almost indifferent. We should be interested in it more. And we should feel sorry for them. These are my opinions.
- It seems that the Koreans don't like the Japanese. Considering what we have done, it may be natural to think so. Today the Japanese do not dislike the Koreans but the Koreans seem to dislike them. They should forgive us because we are making efforts to be forgiven.
- Japan were guilty of killing many people but any other countries were, too. Japan was stupid. I think the Koreans were sad. It was important not to kill people each other. I hope war like this will never break out again.

(英文は原文のまま記載)

(山西, 1996)

8. 結果の分析

図1より3人中1人強が「韓国」の第一印象を代表する食べ物と象徴づけている。また、17%の生徒が国民の感情論を象徴する形で、「感情的・すぐかっとする・反日的」といった印象を抱いている。「隣国」といった、地理的ではあるがそこに特別な友好関係を抱いているのかどうかは定かではないような印象を抱いている者も10%弱の割合でいた。

図2からは1996年度の調査では最も回答数が多かったのは「平和共生・中立論」(14名)であったが、2000年度の調査によると、最多回答数は「女性教諭批判論」(21名)であった。また、顕著な特徴としては、「女性教諭批判論」が前回調査時よりも3倍に増加しているのに対し、「女性教諭擁護論」が半分強の減少となったことが挙げられる。

図3より授業後の「韓国」に対する印象は、単なる「食べ物」といった漠然としたものから60%強の者が「変化した」と回答した。

9. 考察

「1. 女性教諭批判論」にあった意見としては、1996年度の調査時に記された英語感想文より抽出すると、主に以下の2点がその要点を占めている。

- 1) 日本を単に悪く言っている。日本人(軍)の行為を被害妄想的に考えている。
- 2) 単に自分の意見を押しつけているだけで、教育の域を越えている。

これはやはり自分が日本人であるというある種の誇りを傷つけられたことへの怒りが生徒の中に芽生えているのだろうと推察される。だが、全体から言ってその数は少数派の意見となっている。

「2. 女性教諭擁護論」については主に以下の3点がその焦点になっている。

- 1) この教師は生徒に事実を教えているので評価できる。
- 2) 過去は過去として清算すべきである。
- 3) 両国がお互いを理解すべきである。

これについては前述の1. の意見を上回っている。すなわち、より冷静に事実を見つめ、将来に向けて対応していく方がより建設的であるという意見に集約される。その観点から見ると、これらは後述の3. の意見と重なる部分が多くなる。

「3. 共生平和追求・中立論」は最多の感想となった。以下の3点が主な観点となっている。

- 1) 教師の言い方も良くはないが、実際日本も批判されるだけのことはしてしまっている。両国の歩み寄りが必要である。
- 2) 両国の良い面を見て評価していくことが必要である。
- 3) 世界平和を希求する必要がある。

これらは非常に冷静な見方である。戦争時という特殊な環境に置かれていたので、どちらも良い状態とはいえない環境を作り出してしまっているのである。お互いにしてしまったことは悪いと認め合いながら、今後の将来においていかに良い世界を築き上げていくかを探求するといった前向きな姿勢を持つことが急務であろう。

反面「4. 無解答」という意見も4分の1強と目立った。試験の最中に書かれた文であり、限られた時間内で自分の言いたいことをまとめ上げ、それを英語で記すという作業は、慣れていない生徒には至難の技であつたろう。その後の大学入学試験でもこの出題形式はある程度なじみが出てきたが、日頃から自分の意見を英語で伝える訓練を積み重ねる必要があるように思われる。

一方、2000年度に実施した生徒の意見としては、表1・図1より「韓国」の第一印象を単に「キムチ・焼肉」(34%)といった表面的な現象面からしか見ておらず、具体的に民族・文化・思想といった印象が極めて薄いものであり、反面「反日的」(17%)というような一部日本に対して批判的な印象を抱いているような国ではないかという意見も目立った。概してこの2つの意見が過半数を占めていることから、隣国でありながら情報がさほど入っていなかった印象を抱いた。

顕著であったのは、質問項目2で問うたビデオから見た「日本についての韓国での教育に関する感想」の1996年度と2000年度における生徒の感じ方の違いであった。

すなわち、表2・図2より1. 「女性教諭の考え方を批判する」と言う意見が4年前に実施したものより3倍にも増加し、反面、2. 「女性教諭の考え方を擁護する」という意見が半減、3. の「共生平和・中立」の意見も微減であるという結果が出た。これは表3・図3より「韓国に対する印象」についても61%もの者が大きく「変わった」と述べており、これらの意見と相対的になっているのではないと思われる。印象が「変わった」とされる意見の記述に「(韓国は)戦争についてこだわりすぎている」「ここまで韓国の人々が日本を恨んでいたとは知らなかった」「表では良い顔をしていても、心の中に反日感情を抱いている国・国民」といった強烈な印象が定着しており、これがいまだに反日思想を子供たちに根付かせようとする女性教諭に対する反感を生徒達に持たせたのだと思われる。加えて2002年度に行なわれたワールドカップに向けて日韓ともお互いに協力して進んでいるという関係を持っていた印象を抱いている者もいた(「サッカーが強い」「アジアの中では豊かな国」等の感想より)だけに、その反動が4年前の調査よりも強く出ており、それがひいては「教諭批判」という形で、すなわち「日本をそんなに悪く考えてほしくない」といった意見に集約

されているのではないかといった考え方になったものと思われる。確かに2000年度に実施されたオーストラリア・シドニー五輪の際にも野球で韓国チームはその出場選手のほぼ全員をプロ野球チームに所属する者達で固めて、対日本との試合では全力でぶつかってきたという経緯もある。以前の五輪大会でもマラソン競技の際に日本選手を抜いて1位になり金メダルを獲得した韓国の選手に対して「日本を破って金メダル選手となった英雄」(下線部筆者)という肩書きで国民的英雄の称号を得た選手もいた。とりわけ韓国が世界の桧舞台に上がる際には、メダル獲得を主に標準を定めることはもちろんではあるが、対日本との戦いの際には敵意を剥き出しにして対戦してくるといった風潮が見え隠れしているようにも思われるが、その背景には上記のような思想観念が含まれているのであろう。

韓国への印象が「変わらない」と記した回答例でも「やはり韓国は日本に対してかなりの敵対心を持っていることがわかった」「あまりに日本に対して被害意識を持ち過ぎている」といった「反日思想」がいまだに根強いと生徒達が感じているということも浮き彫りにされた。これらの意見も「女性教諭」に対する「非反論」の数値を押し上げている原因となるであろう。

他方、3.「共生平和・中立」論については「教師は昔の考え方を捨て、日本との関係を深め、日本の悪い点ばかりではなく良い点も学んでいくべき」「今まで日本が戦争でやってきたことがどのようなことかわかっていたつもりだったが、今でもこれほどまでに人の心を傷つけているなどとは思いつかなかった。早く問題を解決して、わだかまりをなくしたい」といった前向きな意見や「日本と韓国は「焼肉」のような関係でありたい」といった文化の産物になぞらえて日韓の友好関係を築きたいと述べる者もあった。また「あまりにも自分は韓国について知らなすぎた」と反省をしながらも「韓国では小学校でも詳しく勉強しているのに、日本ではほんの少しのことしか教わっていない。こんな教育だから終戦記念日を覚えていない人が出てくるのだ」と日本の将来を愁う意見もあった。これらの『意見からは、お互いに辛い過去を共有していても、これからの将来に向けて友好的な関係を結んで行きたいといった積極的な態度が見受けられる。反面、この考え方は前述の「女性教諭批判」論に大きく押されてしまっており、加えて4年前の調査よりも数値を落としていることも図2より言える。以上のことから鑑みても、仮説1「日韓における過去の悲惨な歴史があっても、両国は親善友好を保ってゆける」、及び仮説2「韓国の日本に対する感情は時代とともに変化している」はともに支持されにくく、残念ながら国家間のレベルにおいてはまだまだ親善友好を保っていかなければならないことが生徒達の気持ちの中で実証されたということができる。

10. 結論

往々にして生徒達の意見は上記の3つに分かれた。日韓相互の情勢を考えても、批判、擁護だけではまかり通らぬ政治体制に見られる複雑な事情が混在されており、生徒達もそれらを敏感に感じ取っている。中でも「両国は双方の良い点を教え合ってほしい。」や「韓国は過去の歴史を重んじる国なのだろうが、日本はそうではない。そこに両国の考え方に矛盾が生じるのである。」といった意見は前向きな見方や鋭い分析がなされてあって評価に値する。無論「日本は韓国に一刻も早く謝罪し、戦争時の残虐行為を反省しつつ未来へ向けてお互いに邁進していくべきである。」や「一刻も早い世界平和の追究を。」というのも同様である。

アンケートの内容項目においてより詳細な分析が必要だったことは今回の研究に対する限界点であった。すなわち、「女性教諭に対する批判」の増大さと4年前の調査データの差異において、なぜそのような差になったのかが詳しくは分析することができずに憶測の域を脱することができず、また、図2と図3のように女性教諭に対する批判、擁護、及び両国の共生平和を願う意志と、「韓国への第一印象」の推移の変化を相互に関連させながら質問項目の中に取り入れることができなかったことが悔やまれる。以上の改善点は以後の研究者に委ねたい。

2000年の年、日本の歌手「CHAGE & ASKA」は日本人として初の大規模なコンサートを韓国内で催して、韓国の若者からは絶賛を受けた。それに先立ち、1999年には日本で活躍する韓国人歌手「金蓮子(キム・ヨンジャ)」が韓国にて美空ひばりの名曲「川の流れのように」他日本の歌謡曲6曲を日本語で熱唱し、満場の聴衆から大声援を受けている¹⁹⁾(北海道新聞, 1999)。2004年度には韓国で作成された恋愛ドラマ「冬のソナタ」が日本でも大流行し、主役のペ・ヨンジュンを始めとする韓国人俳優が大人気となり、前述したように「韓流」ブームが吹き荒れている。日韓関係も緊張の緩みが徐々に見られてきている。のみならず、同じ朝鮮半島では韓国の

大統領と北朝鮮の首席が共に固い握手を交わし、2000年行なわれたシドニー五輪では南北朝鮮合同入場行進という歴史的、劇的な出来事が見られた。結果として当時の韓国の大統領には南北朝鮮半島の平和融合に寄与したという功績を称え、ノーベル平和賞が授与されている。2002年には日本と韓国が合同で開催するサッカー・ワールドカップが行なわれた。2004年に開催されたアテネ五輪開会式でも、2000年同様に南北朝鮮合同入場行進が再度実現した。

今後ともあらゆる機会に生徒達に「過去の遺物」としてだけの歴史をとらえさせるのではなく、現代の21世紀に生きていく、前途ある若者に国際関係の様々な現実を直視させながら、「未来の礎」としての「真実の歴史」を、外国語教育を通じて語り続けていきたいと思っている。

参 考 文 献

- 1) STV (1996) 戦争を知っていますか 月曜日の子ども達(教育特集) どさんこワイド 212 北海道：北海道テレビ放送
- 2) 爆弾投下に対するアメリカ・韓国の意識調査 News Station 東京：テレビ朝日 News Station 調査団
- 3) 筒井真樹子 (1988) 韓国の教科書の中の日本と日本人 東京：一光社
- 4) 石渡延男他 (1988) 外国の教科書の中の日本と日本人 東京：一光社
- 5) 関根 謙 (1988) 中国の教科書の中の日本と日本人 東京：一光社
- 6) クントン・インタライ (1986) 5 日本の近代化の中身 アジア人蔑視 日本人はアジア人か p.161 東京：学生社
- 7) 李 御寧 (1982) 「縮み」志向の日本人 東京：学生社
- 8) 山西敏博 (1995) 諸外国からの観点からの日本史—終戦50周年記念 特別講義— 国際的視野に立つ生徒の育成を目指して 北海道教育研究集会口頭発表 北海道：北嶺中高等学校
- 9) Reichauer, Edwin (1979) あとがき The Japanese p.434 東京：文芸春秋
- 10) Vogel, Ezra (1979) 序文 Japan as No.1 p.3 東京：TBSブリタニカ
- 11) NHK (1984) どう映っているか日本の姿 東京：日本放送出版協会
- 12) Benedict, Ruth (1965) 菊と刀 東京：講談社
- 13) 竹村雅史他 (2000) 日・韓高校生にみる聴解力・読解力に関する一考察 北海道英語教育学会 口頭発表資料 北海道
- 14) 竹蓋幸生 (1998) 3 Round System の効果 大学英語教育学会 北海道支部講演 北海道：札幌
- 15) 山西敏博 (1998) 「電光掲示板読解方式」で読む英文読解指導方法—速読即解・内容読解方法のすすめ— — STEP '98 英語情報 p.38 東京：(財)日本英語検定協会
- 16) NHK (1996) 溢れる日本文化の中で —韓国— アジアの教師たち 「E T V」取材班 東京：NHK
- 17) 平井久志他 (1993) Who Am I ?— In Search of Myself— World Scope: People and Issues New Edition p.4-6 東京：桐原書店
- 18) 山西敏博 (1996) HOW YOU FEEL ABOUT KOREAN EDUCATION IN JAPAN
HOW YOU FEEL OF JAPAN IN KOREAN EDUCATION 北海道教育研究集会 口頭発表 北海道：札幌
- 19) 北海道新聞 (1999) 日本語歌謡曲 韓国で熱唱! 第3社会面 p.29 北海道：北海道新聞

(平成16年12月2日受理)

